



ウシには胃ぶくろがどうして四つもあるの

草の繊維がかたすぎるため

ウシのえさである草は、かたい繊維でできていて、かんでもかみきれず、そのままでは、体の中で消化しにくいものです。そのため、ウシや、同じように草を食べるシカ、キリン、カバなどの仲間は、いちど飲みこんだえさを口にもどし、もういちどよくかんで、また飲みこむ、ということをします。これを「はんすう」といいます。はんすうする動物は、ウシのように、胃ぶくろが、三つから四つに分かれています。

四つの胃で、じっくり草を消化する

ウシの四つのへやになった胃ぶくろのうち、第1胃には、大量の細菌がすみついていて、口から送られてきた草がこねまわされ、細菌のはたらきで発酵して、消化されやすくなります。これが第2胃で少量ずつのかたまりにされ、また、口にもどされます。ねそべったウシが、ときどき口だけ動かしているのは、胃からもどされた草を、かみなおしているのです。だ液とまじって細かくなった草は、第3胃に送られ、さらに第4胃で、胃液によって、人間の胃と同じように消化されます。（監修・今泉 忠明）

ウシの四つに分かれた胃

